

2019  
6月14日

# つながる「ふるさと」、オガチの底ヂカラ プロジェクト 「令和元年度 第1回実行委員総会」レポート

秋田県雄勝地域振興局

昨年度からスタートした『つながる「ふるさと」、オガチの底ヂカラ プロジェクト』。

今年度も取組を進めるにあたり、去る6月14日(金)に実行委員総会を開催しました。

今回のレポートでは、その内容についてご報告します。

【開催日時】 令和元年6月14日(金)15時～17時

【会場】 湯沢ロイヤルホテル

【出席実行委員数】 18企業・団体、21名

【主な内容】 ・事業趣旨説明  
・基調講演  
・意見交換 ほか



ファシリテーターを務めた平元美沙緒さん(左)と平元沙恵子さん



始めに一人一言ずつスピーチをして、基調講演、意見交換に入りました。

## 1 事業趣旨について

この事業では、若い世代の地元定着のきっかけづくりと、企業等のつながりによる地域活性化を目指しています。昨年度は、地元産業や企業の特長を地元企業の代表者の方々が学べる場を設け(ジバゼミ)、地域の子どもたちや若者に伝える手法を検討しました(ジバカード)。

### 平成30年度

**プロジェクト  
実行委員会設立**  
H30年度  
参加企業・団体  
代表者 31名

#### ジバゼミ（「交流勉強会」）開催

・参加者が、実行委員会メンバーの企業等や伝統産業を見学・体験し、交流する場。その後行うワークショップにおいて、見学や体験により得られたキーワードを洗い出し、参加者間で共有、学びを深める。  
(9回開催)



「企業」「伝統産業」「人」を知る場

#### ジバカード

##### （「地域資源カード」）作製

・ジバゼミで学んだ、産業や企業等の特長や強みを「見える化」したカード。  
(8企業・団体、25種類作製)



地域が“つながる”ツールづくり

### 令和元年度

今年度は、さらに次の視点で取り組んでいく予定です。

(1) 地元の産業等の特徴を、子どもたちや若者に積極的に発信

(2) 子どもたちや若者が、地元の産業等と主体的に関わる機運が高まるような環境づくり

#### ①ジバゼミのパワーアップ

- 実行委員の拡大
- ジバゼミでの意見交換の充実 (6～10月を予定)

#### ②ジバカード作製

- ジバゼミ実施企業等のカードの作製(10月～令和2年1月)
- 作製した企業等へアンケート調査

#### ③ジバカード活用方法の探究

- ジバカードを使用する子供たちから活用方法に関する意見を集め、効果的活用法について実行委員間で検討 (秋頃予定)

実行委員の皆様、今年度もご協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

## 2 講演『地域との「つながり」で新たな価値を創造する』

講師：(株)reblue 代表取締役 京野 健幸 氏

講師の京野さんが代表を勤める(株)reblueが昨年行ったイベント「ファーマンテーターズ・ウィーク」についての事例を紹介していただきました。

- このイベントは、湯沢雄勝地域の発酵醸造文化を発信しようと、昨年11月3～11日、同市岩崎地区にある秋田銘醸(株)の旧岩崎蔵をメイン会場に開催され、9日間で延べ1,300人が参加しました。
- 単に、酒や味噌醤油、漬物だけでなく、地域にある様々な資源の価値を見つめ直し、広く発信・体験できる場を作るとともに、イベントに関わる多くのファーマンテーターズ（「個性を醸す人」の意。）とともに、「発酵」を核とした地域発展のあり方を模索することが、このイベントの目的です。
- 期間中は、酒、食、カンファレンス(会議・協議)、音楽など、各種のイベントが行われました。
  - ・世界発酵人会議…発酵をテーマにしたトークセッションなど。
  - ・発酵人晩餐会…観光資源や食文化に触れる晩餐会を、市内、近隣市町村の各地で開催。川連漆器、稲庭うどん、麴、アウトドア…など、テーマは様々。
  - ・発酵人ミュージックナイト…「音楽」に浸るタベ。・発酵人感謝祭…食べて、吞んで、遊んで、学ぶ2日間。
- 「つながること」は地域にどのような変化を起こすのか。「つながること」だけでは価値は生まれない。生まれた「つながり」の属性にとらわれずに、新たな価値を付加することが重要。それによって、まるで「発酵」のように、連鎖反应的にまた新たな「つながり」や「新たな価値」が生み出されると考えます。



「9日間連続のイベントができたのも、これまでの「つながり」の力でした。」と話す京野さん

## 3 意見交換『地域の各主体がつながる時に大切になるポイントは？』

基調講演を踏まえて、つながりをつくる時に「必要なもの・こと」「大切にしたいこと」「大切にされたいこと」についてワークショップを行いました。発表では、各グループから次のような意見がありました。



### つながる「目的」

- ・「モノ」だけでなく、課題や目標など「コト」に向かってつながること
- ・同じ方向を向いて取り組んでゆける。
- ・人口減少という危機を共通に認識することで同じ目的が生まれ、そこからさらに交流が生まれる。

### つながるための「交流」

- ・お互いを知り、理解することで「つながる」ためのハードルが下がるのではないかと。
- ・世代や立場に関わらず、積極的に交流できるような場をつくるのが大切。
- ・知り合うことで生まれる安心感・信頼感によってつながりをさらに深めることができる。

### つながりを求める「意識」

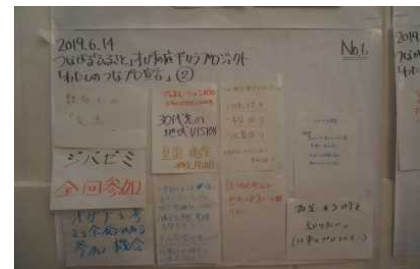
- ・なにがともポジティブに考え、取り組むという熱意を持つ人がつながっていく。
- ・人と地域が積極的につながることが活性化につながる。



## 4 「わたしのつなプロ宣言」

基調講演、意見交換を踏まえ、今年度の当プロジェクトへの意気込みを、参加者の皆様に言葉にいただきました。

- 参加者の皆さんが今一番力を入れている取組、考えを知り、地域への理解を深め、自分の力にもさせてほしい。
- 地元を再認識する。まずは知ることからはじめたい。
- 自分自身が積極参加する。「つなプロ」を広めたい。地域を知り、学ぶ。
- 各企業の「湯沢雄勝らしいこだわり」を知りたい。この地域を「share」したい。
- ジバゼミ全回参加を目指す。・・・などなど。



参加してくださった皆様、誠にありがとうございました。  
今回のレポートは、第1回ジバゼミ（湯沢地熱(株)様）についてです。